



# 東京医科歯科大学 医師会報

No.11



2001

東京医科歯科大学医師会



東京医科歯科大学医師会  
講演会

“生き生きした21世紀の生活を送る中高齢者”

- (I) これからの女性の幸せのために 産婦人科教授 麻生 武志  
(II) 中高齢者に咳が続いたら！ 呼吸器内科教授 吉澤 靖之  
(III) 生活習慣と心臓病  
—動脈硬化による心臓病の予知と治療法の進歩— 循環器内科教授 磯部 光章

- 日時 平成13年7月7日(土) 午後1時から3時10分  
■場所 東京医科歯科大学医学部附属病院  
B棟5階 症例検討室  
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 TEL 03-3813-6111 (代表)  
■会場費 無料  
■主催 東京医科歯科大学医師会  
■後援 東京都医師会／小石川医師会／文京区医師会  
●東京医科歯科大学医師会事務局  
東京医科歯科大学医学部外科 (血流・血管応用外科学分野)  
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 TEL 03-3813-6111 (代表) FAX 03-3818-7182



# これからの女性の幸せのために

麻 生 武 志

東京医科歯科大学  
産婦人科

20世紀から21世紀へ・・・日本人女性の寿命は20世紀の後半から延びつづけて世界最長となり、また女性の社会活動への参加も年々高まっています。しかしその一方で、女性を取り巻く環境が時代に即して整備されているとは言えず、生活習慣の変化や高まる精神的ストレスが女性の健康状態に大きな影響を及ぼし、その結果生じた問題が増えてい

るのが現状と言えましょう。これからは女性自身が自分の健康増進をはじめ、生活環境の向上に積極的に発言し、活動すべきであり、そのためには先ず女性の生涯にわたる身体と心の変化の特徴を全ての人々が正しく理解することが重要です。これからの女性の幸せのために何が求められ、何をすべきかを御一緒に考えてみましょう。

# 中高齢者に咳が続いたら！

吉澤靖之

東京医科歯科大学  
呼吸器内科

咳は若い方から中高齢者まで誰もが経験する一般的呼吸器症状で、原因は極めて多彩です。

まず、刺激臭の強いガスなどを吸い込むと咳が出てそれ以上有害物質が入って来ないようにして肺と体を守ります。

一方、病気のサインとしては誰もが経験する感冒やインフルエンザなど上気道感染症に伴う咳があります。風邪症候群の後に咳が長く続き時は、咳喘息といって喘鳴のない（ゼイゼイしない）気管支喘息や細菌感染症などが心配です。

また中高齢者では最初から肺結核や肺癌などによる病気のサインとして出てくる場合があります。

その他ある種の降圧剤（高血圧に対する薬）など薬による咳もあります。

高齢者になると物を呑み込むことが上手くいかないため誤嚥をおこし咳がでたり、夜間睡眠中に唾液など少量の誤嚥によって咳発作がおきます。中高齢者では咳の起こる時間帯、咳の起こるきっかけや呼吸器以外の症状など注意深く観察して正しい原因を見つけることが大切です。その原因によって治療薬や対応が変わります。

歳だから咳がでると諦めずに一緒に中高齢者の咳について考えてみましょう。

# 生活習慣と心臓病

## —動脈硬化による心臓病の予防と治療法の進歩—

磯部 光章

東京医科歯科大学  
循環器内科

最近生活スタイルが変化するのに伴って、日本でも、心臓病で死亡する人が増えています。その多くは動脈硬化による虚血性心疾患です。動脈硬化は普段は症状がありませんが放置すると恐い病気です。動脈硬化は加齢にともなっておきる老化現象の側面もありますが、それを加速する危険因子があります。主なものは 1. たばこ 2. 肥満 3. 糖尿病 4. 高血圧 5. 高脂血症です。様々なストレスが動脈硬化を促進することも分かっています。これらの多くは日常生活上の注意で改善することが可能です。動脈硬化を予防するライフスタイルを身につけることです。減塩食、運動、禁煙、節酒、体重のコントロールなどが必要です。身構えて食事療法や運動を始めることより、日常生活のなかでの習慣になじん

だ方法を見つけることが大切です。一方、虚血性心疾患の治療がめざましく進歩しています。治療法の選択の幅も広がり、一人ひとりの患者さんの希望や体力、年齢に応じた治療法を選択することが可能になっています。本講演会では、1. 動脈硬化による心臓病の成り立ちと症状 2. 最新の検査法・治療法の紹介 3. 冠動脈硬化を予防するための日常生活上の注意 4. 病気になった場合の対処の仕方、などを分かりやすく解説する予定です。薬での治療の注意点や副作用、バイパス手術後、風船療法後の注意についても解説したいと思います。この講演会を通じて、病気の正しい理解を深めて、心臓病に苦しむ人が、一人でも減るためのお役に立ちたいと考えています。

## 東京医科歯科大学医師会報 第11号

---

2001年6月31日発行 ©

●発行 東京医科歯科大学医師会〔会長：岩井 武尚〕

事務局 東京医科歯科大学医学部外科(血流・血管応用外科学分野)内  
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

---